

2016年度 学校評価(自己評価)

2016年度は次の各項目を重点目標として設定し、その他の教育活動も含め、さらなる向上を図った。

1. Waseda Vision 150 に基づく計画の具体化
2. SGH (スーパーグローバルハイスクール) 指定に伴う構想の着実な実践
3. 日常教育活動全般の充実と改善
4. 中学部と高校の円滑な接続
5. Waseda Vision 150 で改革を進める各学院との連携強化と教育内容の接続
6. より開かれた学校に向けての施策
7. キャンパス整備：施設の適切な運用と第3期以降の展望
8. 災害への備え、生徒教職員の安全確保

以下、各目標についてその遂行状況を概観する。

1. Waseda Vision 150 (学院) に基づく計画の具体化

スーパーグローバルハイスクール指定から3年目を迎え、国際交流や海外フィールドワーク、国内フィールドワークなどのプログラムや、グローバルリーダー育成に向けて Waseda Vision 150 を意識した授業展開をさらに充実・拡充させるとともに、来年度より運用を予定している、新しい留学制度の着実な実施に向けて計画の具体化がはかられた。

2. SGH (スーパーグローバルハイスクール) 指定に伴う構想の着実な実践

課題研究「多文化共生社会の創造・維持・発展」の推進のため、授業内では、英語授業や総合的な学習の時間においては身近な環境での多文化共生を意識させるような授業、さらに第二外国語では横断型授業教材開発とその実践を行うとともに、課外フィールドワークは、これまでのオーストラリアや対馬、沖縄に加えて、本年度はドイツ・フィールドワークを実施するなどの新たな SGH 活動を着実に実践した。さらに、来年度フィールドワークへの準備にも取り掛かった。

3. 日常教育活動全般の充実と改善

授業、部活動や SGH、SSH を含む様々なプロジェクト活動を通して、学習指導や生徒指導をさらに充実させるとともに、保護者との連携など、日常の教育活動全般の改善のために一層の努力を行った。

4. 中学部と高校の円滑な接続

中学部第二期生の高校卒業をむかえ、学校行事やクラス運営などを通して様々な活動をリードする存在として、中学部出身の生徒が活躍している。また、高校 3 年生が中学部生の学習発表会へ向けた準備等を手伝う総合学習サポーターの取り組みなど、中学部と高校の連携も着実に進んでいる。

5. Waseda Vision 150 で改革を進める各学術院との連携強化と教育内容の接続

対話型、問題発見解決型の授業やグローバルリーダー育成のための教育などを含め、早稲田大学が挙げている Waseda Vision 150 の核心戦略に基づいて改革を進める各学術院への進学を意識した教育活動を実施するとともに、各学術院との懇談などを通して、問題意識の共有や意思疎通を深めるようにした。

6. より開かれた学校に向けての施策

様々な国籍の高校生との国際交流プログラムや、SGH・SSH の取り組みを含む数々のプロジェクトを通して他校や大学、あるいは地域とつながりを持ちながら活動を行うなど、より開かれた学校へ向けた施策の着実な実践を行い、外部との連携をより深めた。

7. キャンパス整備：施設の適切な運用と第 3 期以降の展望

講堂、体育館や人工芝化されたグラウンド等の施設の適切な運用は順調に進み、授業、学校行事や部活動など様々な活動が活発化した。今後は、理科教室などを含む第 3 期工事の早期の着工を展望する。

8. 災害への備え、生徒教職員の安全確保

大地震をはじめさまざまな災害に対処するため、備蓄品の管理・確保を進めた。また、防犯・防災訓練の実施や帰宅困難時の経路確認を通して、災害時の際の対応の確認を行った。

以上

2016年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

2016年度の重点目標の内「3. 日常教育活動全般の充実と改善」をより一層推進するため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度に引き続き5回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
(生徒は高校のみ)

IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- IV-2. 部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
(生徒は高校のみ)

V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる
- V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- V-3. 私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

I 学校全体の取り組みについて

質問項目 1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で 56.8% (昨年度 57.3%・一昨年度 58.2%)、生徒全体で 34.7% (昨年度 31.9%・一昨年度 36.6%) が「そう思う」と回答している。また生徒全体では、「ややそう思う」の評価を加味すると、70.6% (昨年度 71.2%・一昨年度 74.1%) が肯定的な回答をしたことになる。保護者・生徒ともに、評価していると回答した割合は昨年度・一昨年度とほぼ同じで、これは「生徒の自主性・自立性の育成」という本校の目指す教育理念が保護者・生徒ともに深く浸透していることを示しているといえるだろう。

質問項目 2. 「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」において生徒全体では「ややそう思う」が 29.6% と最も多く、「そう思う」(24.4%) と合わせると 54.0% が肯定的な回答となり、一昨年から評価が下がった昨年とほぼ同様の傾向となった。また、保護者全体でも「ややそう思う」が 40.1% と最も高く、積極的な肯定(「そう思う」)の回答が下がっており、中高大連携の在り方の模索・実践についてより一層の努力が必要であると思われる。

質問項目 3. 「国際交流の推進に努めている」では生徒全体で「ややそう思う」が 37.7% (昨年度 40.0%・一昨年度 37.0%)、保護者においても「ややそう思う」が 44.9% (昨年度 45.9%・一昨年度 44.4%) と最も多く、生徒・保護者とも昨年度・一昨年度とほぼ同様の評価であった。今後さらにグローバル社会を見据えた国際交流活動を推進することが必要である。

II 学習指導について

質問項目 1. 「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、昨年と同様、中学生・高校生とも「ややそう思う」が最も高く(中学 44.5%、高校 32.2%)、「そう思う」と合わせると、中学 75.8% (昨年度 73.8%・一昨年度 76.1%)、高校 51.2% (昨年度 49.8%・一昨年度 53%) となっている。中学・高校ともに昨年度よりも評価が上がったが、一昨年度ほどの評価にはならなかった。今後も授業の質の向上のため、さらに日々の研鑽を積む必要がある。

質問項目 2. 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目 3. 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価は、これまでと同様に相対的に低くなっており、生徒に関しては「どちらとも言えない」が最も多い(質問項目 2. 生徒全体 27.9%、昨年度 32.5%。質問項目 3. 生徒全体 28.9%、昨年度 33.1%)。ただ、低評価という訳ではない、という点も昨年までと同様で、今後も各教員の取り組みが生徒に正しく伝わるような説明・授業展開を続けていく必要があるだろう。また、生徒一人ひとりの特性が生かされるような取り組みが今後も求められる。

質問項目 4. 「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている（生徒全体 32.0%、保護者全体 46.6%）。普段の授業における評価が進級・進学の際に非常に重要となる本校では、「そう思う」という評価が最も高くなるよう、今後も改善に努めなければならない。

Ⅲ生徒指導について

1～4 全ての項目において「そう思う」あるいは「ややそう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、これまでと同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との信頼関係が良好の状態が保たれており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組み立てられていることが、この結果からわかるだろう。

本校では、学部説明会やモデル講義、本校 OB である学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等を通して、学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えていることで、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている生徒たちへ早い段階から意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。今後もこのような機会を設定・拡充し、生徒が適切な進路決定へ結びつけるよう努めていきたい。

Ⅳクラブ活動について

質問項目 1. 「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」について、中学部保護者では昨年度同様高い評価を受けた一方、高校では「ややそう思う」が最も多く 37.5%であった（昨年度は「そう思う」が 36.7%で最も多く、一昨年度は「ややそう思う」が 34%で最も多かった）。それに対し、高校生全体では「そう思う」が 31.2%と最も多くなり（昨年度は「ややそう思う」(31.0%) が最も多く、一昨年度は「そう思う」が 32.2%で最も多かった）、昨年度より評価が高くなった。

また、質問項目 2. 「部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている」については、保護者全体では「ややそう思う」が最も多く（32.9%）昨年度（「そう思う」が 31.6%で最も多かった）より肯定的な回答がやや減少した。一方で、生徒の方を見ると、昨年度同様、高校生全体では「そう思う」が最も多く（28.6%）、中学生全体では「ややそう思う」が最も多かった（29.7%）。生徒・保護者ともに否定的な意見は少ないものの、今後も部長（顧問）と生徒との間のコミュニケーションの重要性をしっかりと認識する必要がある。

高校生への質問項目 3. 「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は高校 1・2 年生では「ややそう思う」が最も高くなった一方で、高校 3 年生で「そう思う」が最も高い評価となっている。一方、保護者の方では全体で「ややそう思う」が最も高い結果となっており（28.3%）、「そう思う」（22.5%）と合わせると 50.8%と高評価になっている（昨年度 50.3%）。今後も部長（顧問）と生徒・保護者との連携を密にする努力を続けていくことが重要となる。クラブ活動への参加率はかなり高い本校において、高校生活におけるクラブ活動の意義は非常に大きく、安

全面の配慮に十分注意しながら、部長と生徒・保護者との良好な関係を保つことで、生徒にとって有意義な活動になるよう努力を続ける必要がある。

以上